

第2学年3組 社会科学習指導案

2年3組教室 指導者 岩瀬 鉄馬

1 単元名 産業を支える矢作川（中部地方）

2 単元の目標

- (1) 中部地方の自然環境、人口、産業などの特色や、矢作川流域の地域的特色を意欲的に追究することができる。
- (2) 矢作川流域と西三河の関係について考え、その過程や結果を表現することができる。
- (3) 中部地方に関する統計、地図、写真などの資料を取捨選択して活用することができる。
- (4) 中部地方の特色を理解し、矢作川と産業の結びつきを理解することができる。

3 単元の構想

(1) 生徒にかかる教師の願い

本学級の生徒は、これまでの授業から資料を収集し、自分の考えをもつことができる生徒が増えてきた。しかし、多くの生徒は、事象への関心が浅いことが多いせいか、読み取った資料などを考察したり、意見交流を通して考えを深めたりすることを苦手としている。

そこで本単元では、多くの資料を収集するだけでなく、地理的事象や自分たちで調べた資料を自分の言葉で説明できる力を育てたい。そして資料をもとに作成した地図から読み取る力、表現力の充実を図りたい。

抽出生Aは、意欲的に授業に取り組み、挙手や発言も多い。しかし、資料を適切に読み取って自分の言葉で語ることを苦手としている。また、意見交流になると、自分の言葉で語るができず、伝える側よりも聞き手側になってしまいがちである。作成した地図をもとに自分の言葉で伝えられることができるようになってほしい。

(2) 教材について

本単元は、日本の諸地域の中部地方を扱い、農業や工業などの産業を中核として、それを成立させている地理的条件の一つである河川と関連している地域的特色を捉えさせることを狙いとしている。中部地方は、北陸地方、中央高地、東海地方に分けられ、各地方とも平野や盆地、河川が流れている。人口の集中している平野や盆地で産業がさかんであり、付近にかならず河川が流れている。工業では、中京工業地帯、北陸工業地域、東海工業地域があり、原材料輸入のための港は、河川河口にあることが多く、内陸はかならず、河川の流域にある。農業では、平野や盆地で盛んに行われており、用水を引くことで、発展してきた。河川が産業に大きくかかわっていることを理解させる適切な教材と言える。そこで、本校区内を流れる矢作川と西三河との結びつきを学習する。西三河は、用水や上水が矢作川水系を水源として取水している地域である。各用水の経路や、産業の動向などを追究させ、まとめることで自分たちの地域が河川に支えられていることに気づくであろう。それが中部地方の地域的特色と合致していることで、より中部地方の地域的特色を実感させて深めることができると考えられる。

(3) 単元について

つかむ段階では、中部地方全体について、地形や自然環境、産業を学習する。常に、河川を意識させるため地形図と産業の盛んな地域を照らし合わせることで、中部地方の地域的特色として、河川が関係していることに気づくことができるであろう。そして自分たちの住む地域は、矢作川が関係しているのではないかと、矢作川に目が向き、追究していくと考える。

深める段階では、矢作川と西三河の関連について追究していく。地形、流通、歴史を学習し、西三河の農業や工業について一人調べを行い、その後調べた内容をクラス全体で共有する。その際、大きな地図を利用し、調べた内容を発表し地図を作成していくことで、視覚的に矢作川が西三河の産業を支えているという地域的特色に気づき、理解することができるであろうと考える。

生かす段階では、これまでの授業を振り返り、中部地方と西三河の地域的特色についてまとめる。中部地方の地域的特色をより実感できると考える。一人調べした資料を取捨選択して活用し、自分の言葉で、伝えることができる姿を期待する。

4 単元構想図 (12時間完了、本時8/12)

中部地方はどのようなところなのか知ろう (3)

- 中部地方の地形・自然環境、産業について理解する。

中部地方は、日本アルプスと呼ばれる大きな三つの山脈に分けられているよ。

人口分布の地図を見ると平野に集中して、平野には河川が必ずあるね。

中京工業地帯や東海工業地域、北陸工業地域は、平野にあるよ。

工業は、材料の輸出入を行えるための港が必要で、川の河口にあるね。

農業では、知多、渥美半島で水不足に悩まされたのを用水を引いて解消してる。

施設園芸農業や観光農園など、どの地域の農業も河川が近いね。

中部地方は河川の利便で発展しているのね。西尾も利用しているのかな。

- 西三河はどうなっているのか考える。

西尾市は、矢作川からの水を使っているって小学校の時にあったよ。

矢作川は西三河の産業に大きくかかわっているのかな。

西三河の人々にとって矢作川はどのような役目をはたしているのだろうか

矢作川について追究しよう (8)

- 矢作川の周辺地形、歴史、流通面について理解する。

【地形】

日本アルプス周辺を源流として、西三河を流れ、三河湾へ流れているよ。矢作川は、3つ用水が作られているよ。矢作川の上流には、ダムが多く、また発電所がたくさんあるよね。

【歴史】

今の米津より下流は、徳川家康の命で、水害被害が多くて古川から付け替えられたんだね。矢作川流域には、縄文時代から移住していたみたい。かなり昔から流れているね。

【流通】

江戸時代、下流へ木材を運び、上流へ平坂から商品運んでいたんだ。江戸時代、矢作川を使った船運河が盛んだったみたいだよ。豊田方面へ往復するのに、3日から5日かかっていたよ。

- 西三河の農業とのつながりについて調べる。

西尾にもブランド米として「矢作の恵」が作られていたよ。矢作とはいっているよ。安城は、稲作が盛んで、小麦や安城和牛など、農業がさかんな地域だよ。

農業用水は上水と違って値段が安く、防水や、親水空間の形成などにも使われているよ。農業用水が引かれる以前は、ため池や地下水を自力で引いて大変だったみたい。

西三河の農業用水は、矢作川水系が水源。枝下用水、矢作用水、明治用水があるよ。枝下用水は、豊田へ。明治用水は、安城周辺へ。矢作用水は、西尾岡崎周辺だよ。

教師の支援

- 河川との結びつきを意識させるために、河川の入った地図を利用して中部地方の学習内容を記入させる。
- 地理的特色を理解させるために、教科書や地図帳を丁寧に読み取らせる。
- 深める段階につなげていくために、河川と用水の関係とおさえておく。
- 矢作川に注目できるように、西三河地域の地図を準備する。

- ※抽出生Aには調べるキーワードを与えることで、調べやすくさせる。
- 調べた内容を全員で共通理解するために、書き込める大きな地図を準備する。
- 地図上にかけない歴史や年表も書きこむため、余白も地図につけておく。

- 一人調べがスムーズに進めるために、流域作物、主な用水、稲作などのキーワードを与える。
- 一人調べで関連するところが円滑になるために、資料を準備し、付箋をつけておく。

つかむ

深める

明治用水が引かれたことで、水田の数は、受益区域は、一気に倍以上増えたよ。

岡崎や豊田の東側には、矢作川からの農業用水は行き届いてないよ。

西三河の農業と矢作川のかかわりについて考える（本時）

矢作川の水は西三河の農業を支えていることが用水路の地図から読みとれるよ。

各用水の受益地を範囲や、その範囲の農産物を書き込んでいこう。

中部地方で学んだように、西三河の農業も、周辺にある河川を利用していったんだ。

荒地を開拓していったおかげで西三河は矢作川の水を利用できているんだね。

深める

- ・西三河の工業とのつながりについて調べる。

工業用水は、塩素消毒がされていない分、安く利用できて、上水とは別の配管なんだ。

矢作ダムが水源となっているけど、農業用水とは違う経路で運ばれているんだね。

工業用水は、主に、機械の冷却、ボイラー、製品の洗浄に使われるんだね。

トヨタも元は、地下水使用だったけど、需要増加で、工業用水を引いたんだね。

工業面について調べたことを発表し、まとめる。

地図から矢作川の水によって西三河の工業を支えていることがわかるね。

トヨタなどの大企業の使う工業用水は、矢作川の水が使われているんだね。

- ・完成した地図を見て気づいたことを意見交流する。
- ・西三河の地域的特色を考える。

どの産業も矢作川の水が利用が利用されている。西三河が矢作川が支えていたんだね。

地図をみていると、西三河の地域的特色は、中部地方と類似しているね。

これまでの学習を振り返ろう。（1）

- ・これまでの授業で調べてきたこと、作成した地図をもとに、まとめを作成する。

中部地方は、日本アルプスから各地域の平野に河川が流れていて、平野に流れていた。そしてその平野の産業を支えていた。

西三河は、矢作川が昔からこの地域にとって重要なものだったことがわかった。大切な役目を果たしていたんだね。

生かす

中部地方の学習を通して、河川と産業の結びつきについて理解できた。自分たちの住む西三河も矢作川が産業を支えていることがわかった。

- ・矢作川の水が西三河の産業に貢献していることに気づかせるために、西三河のさかんな産業についても調べるように指示する。

- ・産業すべてが矢作川によって支えられていることに気づかせるために、地形、歴史、商業面で利用した地図をそのまま利用する。

※抽出生Aには自分の調べた内容を書きこむことができるように、場所を指示する。

- ・工場の位置が矢作川の水を利用していることに気づかせるために、工場のある位置にマークするシールを用意する。

- ・産業すべてが矢作川によって支えられていることに気づかせるために、地形、歴史、流通面と農業面で利用した地図を続けて利用する。

- ・中部地方を振り返らせることで、西三河の特色が、中部地方の特色と類似していることに気づかせる。

- ・これまでの学習を文章だけでなく、地図も使ってまとめるように指示する。

調べ学習で取捨選択した資料から地図を作成し、意見交流によって中部地方や西三河の河川の働きについて理解できた抽出生A

5 本時の学習（本時8 / 12）

（1）目標

- ・農業面についての調べ学習で収集した資料を活用し、地図に書き込むことができる。
- ・矢作川と西三河の農業の結びつきについて理解することができる。

（2）過程

1 ここまで作成した地図を確認しよう。（5分）

- 作成して地図を確認する。
 - ・歴史では昔、米津には港があって水運業が盛んだったよ。
 - ・生活では、矢作川からの水が上水として使われていたよ。

2 農業面について調べたことを発表し、関係を考えよう。

（40分）

- 調べた内容を発表し、地図に書き込む。
 - ・明治用水の範囲はこの安城とその周辺に受益されているよ。
 - ・枝下用水は、豊田市の矢作川の西側が受益範囲だよ。
 - ・矢作用水は、明治用水の東側で南北にのびて受益しているよ。
 - ・明治用水を矢作川から引いたことで、安城の田んぼの数は大幅に増えたよ。地図も近くに付け加えるよ。
 - ・稲作は、用水を利用する以前は、水路を作成し、「ふみぐるま」でくみ上げていたよ。
 - ・安城の稲作は県下トップ3の生産量だよ。「コシヒカリ」が中心だったよ。
 - ・西尾にもブランド米があるよ。「矢作の恵」って名前だったよ。
 - ・安城は、稲作だけでなく、畑作も明治用水を利用しているよ。きゅうりや、いちじく、畜産もさかんだよ。
 - ・西尾のうなぎは、養鰻用水といって、矢作川の水を利用して育てていたよ。
- できた地図から矢作川と農業のかかわりについて考えよう。
 - ・地図を見ると、西三河の農業は、ほとんど矢作川水系の水を使って行われていることがわかるね。
 - ・矢作川の水で西三河の農業が支えられているんだ。

3 本時の振り返りをしよう（5分）

- 本時で気づいたことや感想を授業日記として学習プリントにまとめる。
 - ・自分たちの住む、西三河の農業に関することを地図にまとめると、やはり矢作川が西三河の農業を支えていた。
 - ・西三河の農業がこんなにたくさんあると知らなかった。でも、ほとんど矢作川の水を利用していることがわかった。

教師のはたらきかけ

- ・本時の学習課題につなげていくために、ここまでの矢作川とのかかわりについて全体で確認する。

- ・矢作川と西三河の農業の結びつきが理解できるようにするために、発表する指名順を工夫する。

- ・視覚的に矢作川と農業の結びつきが理解させるために、板書と共に、用水路などを地図に書き込む。

- ・各地域のさかんな農産物を地図に記入できるようにするために、シールやマークを準備しておく。

- ※生徒Aには、自分の考えを自信を持って相手に分かりやすく伝えるようにするために、机間指導で助言を与える。

- ・矢作川と農業のかかわりを再確認するために、関係する地図や資料を準備する。

- ・本時の話し合いを通じて、学んだことや気づいたことともに、自分の考えをまとめる。

（3）評価

- ・矢作川と農業の結びつきについて、調べた内容を地図に書き込み、理解することができたか。
(学習プリント、発言の様子)